

和歌山県方言の「とても(非常に)」語彙の研究

A Linguistic Geographical Study Of Some Dialectal Words Of Wakayama Prefecture

柏 原 卓

Suguru KASHIWABARA

2007年10月15日受理

1 はじめに

筆者は平成18(2006)年度に和歌山県教育委員会が実施した「わかやまことばの探検隊」事業の指導助言にあたった。調査には県内の中高生48人が参加し、418人分の電子化データが集まった。調査項目は「語彙」146、「文末」42、「語法」20、「挨拶」14、合計222項目の「方言訳」または「使用する方言の選択」を主とし、「遊び言葉、遊び歌、悪態ことば」も自由記入で調査した。結果を8地域(伊都、那賀、和歌山市、海草、有田、日高、西牟婁、東牟婁)の対照表としてまとめ、『わかやまことばの探検隊 報告書』(和歌山県教育委員会、平成19年3月、全127頁)に掲載した。

さまざまな方言事象の分布が8地域対象というやや粗い区分けではあるが明らかになった。同様な資料としては昭和8(1933)年の『和歌山県方言』(和歌山県女子師範学校・和歌山県立日方高等女学校)以来の成果である。

本稿では「語彙編」で方言量の多かった語の中から程度副詞「とても(非常に)」の方言を取りだして、分布と語史を考察することとする。否定陳述と呼応する「とても～ない(とても出来ない、等)」の陳述副詞「とても」は対象外である。(以下では、『とても(非常に)」の方言」「方言の『とても(非常に)」語彙」のことを『とても』方言」と略称する。)和歌山県の方言についてのこうした研究は少ないので^{〔補注〕}、さらに多くの語について同様な考察が期待される。

なお上記調査の調査表「方言採集のしおり」は東条操の『簡約方言手帖』の様式と内容を参考にしており、語彙編は共通語の単語のみを掲げて空欄に方言訳を記入する様式であった。本稿で考察する『とても』方言は、共通語欄の「とても(非常に)」に対する方言訳を求めた。

2 「とても」方言の分布

報告書のもとになったデータでは、8地域内の市町村別、年代別(19歳以下、20-30代、40-50代、60歳以上)、性別も分かる。しかしここで「とても」方言の分布を示すに当たっては便宜上、市町村別のみで語形の小有異をまとめて示すにとどめる。考察に必要なばあい

は年代、性別、語形の小有異についても明示することにする。

なお市町村名は平成18年の合併以前の旧市町村によっている。たとえば旧田辺市(西牟婁地域)と合併した、旧龍神村(当時日高郡)、旧本宮町(当時東牟婁郡)なども旧のままである。ただし、旧南部町と旧南部川村の「みなべ町」は調査表で新旧混同したものもあったので合わせて「みなべ町」にした。

【分布状況】

〔ガイ類〕 橋本市、貴志川町、和歌山市、海南市、美里町、有田市、吉備町、金屋町、広川町、日高町、川辺町、田辺市、那智勝浦町

〔ヤニコー類〕 みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、中辺路町、那智勝浦町

〔テチ類〕 龍神村、田辺市、白浜町、上富田町、中辺路町、本宮町

〔エライ類〕 橋本市、高野口町、和歌山市、海南市、金屋町、広川町、日高町、田辺市、那智勝浦町、新宮市

〔ドエライ類〕 橋本市、高野口町、九度山町、かつらぎ町、粉河町、桃山町、和歌山市、美里町、串本町、古座川町、那智勝浦町、新宮市、本宮町

〔スゴイ類〕 橋本市、高野口町、粉河町、岩出町、和歌山市、美里町、吉備町、広川町、那智勝浦町、新宮市

〔メッチャ類〕 橋本市高野口町、貴志川町、和歌山市、金屋町、広川町、御坊市、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、大塔村、串本町、那智勝浦町、新宮市、本宮町

〔メチャ○チャ〕 貴志川町、和歌山市、白浜町、新宮市

〔ゴツツー類〕 和歌山市、日高町、田辺市、古座川町、那智勝浦町

〔ノットロ〕 御坊市、川辺町、印南町

〔コロモシ〕 有田市

〔マッタイ〕 金屋町

〔アラクタイ〕 印南町

〔イッカド〕 田辺市、中辺路町

〔アホゲニ〕 白浜町

〔ムッシリ〕 古座川町

〔ムイキニ〕 古座川町

〔分布の特徴〕

- ①「ガイ類(ガイニ、ガイン等)」は全県に(ただし主に日高以北、紀南は田辺と那智勝浦のみ)、「ヤニコー類(ヤニコー、ヤニコイ、チャニコイ等)」は東西牟婁、「テチ類(テチ、テチクソ、テチコー等)」は西牟婁と龍神・本宮に分布する。
- ②近畿他府県と同じように県下でもよく使われているのは「エライ類(エライ、エライコト、エラ等)」「ドエライ類(ドエライ、ドイライ、デーライ、ドテライ等)」「スゴイ類(スゴイ、モノスゴイ等)」「メッチャ類(メッチャ、ムッチャ、メッサ等)」「メチャ○チャ(メチャメチャ、メチャクチャ等)」「ゴツツー類(ゴツツー、ゴツツイ等)」である。「メッチャ類」は若い層、「メチャ○チャ」は上の年齢層という差がある。
- ③少数派のめずらしい「わかやまことば」が色々ある。「アホゲニ」「アラクタイ」「イッカド」「コロモシ」「マッタイ」「ムッシリ」「ムイキニ」等。「ノットロ」は若い層のことばである。

上記の「分布の特徴」を少し解釈してみる。

①は、隣接の大阪とは異色な語彙だが、その勢力はほぼ「ガイ：北、テチ：中、ヤニコー：南」である。テチは新田辺市と白浜町・上富田町に分布して南北を絶つように貫通している観がある。

②で、「メッチャ類」は若い層、「メチャ○チャ」は上の年齢層という差が生じたのは、まず「メチャ○チャ」が伝播した後から、最近になって若い層の言葉として「メッチャ」が伝播してきたと考えられる。

また「ドエライ類」は①と似て「テチ」の南北にまんべんなく分布するので、「ドエライ」が広く県下に定着していたが、そこへ新たに「テチ」が割って入ったと見られる。

県内の分布だけから言えるのはこの程度なので、さらに語史資料や全国分布を参照して考察を広げていく。その際、上記の①「ガイ」「ヤニコー」「テチ」および③から「コロモシ」「ノットロ」「ムイキニ」「ムッシリ」に一応しぼって考察することとする。

3 語史と全国分布・昭和初期の状態・報告書データの解釈

「ガイ」「ヤニコー」「テチ」等の語を考察するにあたって、まず全国分布と語史を『日本方言大辞典』(小学館。以下『日方大』と略す)・『日本国語大辞典』(第2版・小学館。以下『日国大』と略す)や先行研究を参考に概観し、次に昭和8年の『和歌山県方言』の記載から昭和初期の状態を検討し、最後にこれらの知見に立って『わかやまことばの探検隊 報告書』のデータを解釈する、という順に述べて行くこととする。

3-1 ガイ

3-1-1 全国分布と語史

「ガイ」は名詞「我意」に由来するとされる形容動詞で全国に分布し、和歌山特有の方言ではない。連用形「ガイニ」、連体形「ガイナ」だけでなく、東日本で終止形「ガイダ」もある。

『日方大』では、

〔一〕…〔二〕①程度の甚だしいさま。たいそう。たいへん。ひどく。②たくさんのさま。おびただしく多いさま。また、大勢いるさま。③大きいさま。また、ぎょうさんなさま。④乱暴なさま。手荒いさま。無作法なさま。また、無理にするさま。⑤(「我意」か)強情なさま。わがままであるさま。⑥強いさま。丈夫なさま。達者なさま。⑦力。⑧(「がいに」の形で下に打ち消しの表現を伴う)あまり。たいして。ろくに。それほどに。一向に。⑨(「外」の意か)もの余り。余分。よけい。また、過重なさま。よけいなさま。⑩思いのほか。案外。予想外。また、そのさま。⑪(「がいに」の形で)にわかに。⑫まれなさま。⑬精出すさま。⑭皆。まるで。全然。⑮偉いさま。⑯わざととするさま。⑰(「がいに」の形で)たぶん。⑱変なさま。ぶかっこうなさま。⑲汚いさま。⑳つまらないさま。〔三〕…

のように意味を分け、「ゲー」「ゲア」等の変化語形も示して、使用する全国各地の地名や例文をあげる。語史の文献例も若干あげる。

上記のうち①が副詞「とても(非常に)」に該当するが、和歌山県の例として、森彦太郎『南紀土俗資料』(1924)から「今夜はがいに暗いなあ」の例文をあげている。

『日国大』の「がい【我意・雅意】」の項には、

〔一〕《名》

①自分の心。また常の志。…*菅家文草(900頃)四・春詞「自古人言春可楽。何因我意凜於秋」…

②《形動》自分の考えを押し通そうとする心。気ままな心。自分勝手な考え。また、そのようなさま。わがまま。*色葉字類抄(1177-81)「雅意 ガイ」*源平盛衰記(14C前)三・左右大将「偏(ひとへ)に太政入道の雅意(ガイ)の所業也」…

〔二〕《形動》程度が標準よりぬきんでているさま。良い意味にも悪い意味にも用いる。けたはずれなさま。*史記抄(1477)一三・黥布列伝「高祖はいかい志ぞ。項羽はがいなものぞ」…

〔語誌〕(1)「我意」「雅意」共に中国古典に用例が見られ、…しかし、日本では、いずれも「自分の考えを通そうとする心」の意で、マイナス評価を伴った語として用いられるようになり、…(2)室町時代の抄物等には、仮名書きの例が現われ、多くは「ガイナ」「ガイニ」の形で、程度の甚だしいさまを表す。これは現代でも各地の方言で、用いられている。

このような意味説明と「語誌」考証をしている。この考証に対して本稿で付け加える事は特に無い。^{〔註1〕}

[方言]の項は『日方大』と共通である。多様な意味が並んで整理しにくい、「自分の心」がマイナスに偏って「わがままに」となり、「強引」「手荒い、ひどい」を派生。「ひどい」から転じて「程度が甚だしい」意が派生したと言えよう。そこから「多」「大」「強」などが派生した。「程度が甚だしい」を否定すると「まるで～ない」ようになる(この意味は和歌山にはない)。

3-1-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』(1933)では「ガイ」の類に以下のような項目が見えている。

ガアイニ | 副 | きつく | 海有日西東

ガアイニ | 副 | 多く | 海有日西東

ガイ | 形 | 多い | 海那有東

ガイトラカシ あの子はガイトラカシ子や。 | 形 | 沢山、乱暴な | 海西東

ガイトラクイ | 形 | 手荒な | 西東

ガイトラクナ | 形 | 荒っぽい | 海有日西東

ガイトラシイ | 名 | 乱暴な | 東

ガイナ ガイナもんやなア。 | 形 | 多い、大きい | 市海那伊西東

ガイナ 大変な | 海日西東

ガイナ | 形 | 荒っぽい、無作法な | 市海那有日西東

ガイナコト | 副 | 大変多く、大変きついこと | 海那有西東

ガイニ そんなにガイニするもんやない。 | 副 | 強く、きつく | 海有日西東

ガエナコト | 副 | 沢山の | 西

これで見える限りは、「とても(非常に)」と訳せて形容詞や副詞を修飾する例はあがっていない。しかし前述した『南紀土俗資料』(1924)に既に「がいに暗い」があった。

3-1-3 報告書のデータと考察

報告書データでは副詞「ガイニ」「ガイ」は次のように出てきた。(数字は年齢層で、1=19歳以下、2=2・30歳代、3=4・50歳代、4=60歳以上。)

橋本市: ガイン(3女) / 貴志川町: ガイニ(3女) / 和歌山市: ガイニ(4男女・3男女) / 海南市: ガイニ(3男)・美里町: ガイニ(4男女・3女) / 有田市: ガイニ(4女)・吉備町: ガイニ(3男)・金屋町: ガイニ(4男女)・広川町: ガイニ(4男・3男) / 日高町: ガイニ(4男女)、ガイ(4男)・川辺町: ガイニ(3男) / 田辺市: ガイ(1男) / 那智勝浦町: ガイニ(4男・3女)

わりあい単純で「とても(非常に)」の意味の副詞「ガイニ」が全県にあることが分かるだけである。むしろ

前項までによって、動詞修飾の「ガイニ」は「きつく」「多く」の意味で、「ガイナ」「ガイトラクナ」はまた意味が異なる、などに注目すべきか。

3-2 ヤニコー

3-2-1 全国分布と語史

「ヤニコー」類を「とても(非常に)」の意味で使うのは全国的に他所には見られず、南紀の特色ある方言である。連用形「ヤニコー」とともに、連体形「ヤニコイ」が副詞機能を持つことは近畿方言によくある。ここではまず形容詞「ヤニコイ」の全国分布や語史を概観していく。

『日方大』では

①ねばねばしているさまだ。ねばっこい。②道などがぬかっているさまだ。③道など険阻だ。険しい。／④弱い。もろい。弱々しい。⑤柔らかい／⑥汚い。不潔だ。⑦体裁が悪い。貧弱だ。粗末だ。不揃いだ。⑧不つりあいだ。／⑨手ぬるい。押しが足りない。／⑩不確かだ。頼りにならない。／⑪難しい。困難だ。⑫苦しい。⑬煩わしい。うるさい。⑭ものうい。／⑮(否定語を伴って)易しい。容易だ。／⑯仕事などがつたない。未熟だ。⑰ぐずぐずして訳が分からない。／⑱根性が曲がっている。ひねくれている。すなおでない。意地が悪い。⑲人物が悪い。⑳強情だ。頑固だ。㉑ずるい。こうかつだ。㉒憎らしい。㉓厳しい。厳格だ。／㉔ものすごい。㉕甚だしい。多い。副詞的に「たいそう、非常に」などの意で用いることが多い。

『日国大』は、

①やにが多い。粘りけが多い。やにっこい。 *俳・落穂集(1663)三・夏「やにこきをねせて置きぬるたはこ哉」 *…
②あっさりしない。しつこい。くどい。やにっこい。
*狂歌・吾吟我集(1849)六「住吉のきしませぶりにねばふしてやにこき人はまつにきのとく」
③かawaii。もろい。こわれやすい。やにっこい。
*忠臣蔵穴さがし(1833-44頃)五「鴨居は上がり敷居は下がり、雨戸はづれてばたばたと、甚だやにこい家づくり也」… *其面影(1906)(二葉亭四迷)四七「却々トントんと昇れる梯子段ではない。狭くて、脆弱(ヤニコク)で、慣れぬ者には危険言ふべからずであるから」 *…

と3種の意味に分けて説明し語史文献の例をあげている。[方言]の項は『日方大』とほぼ共通である。

両辞書を通して、中核的語義からの派生過程は次のように言えると思う。

ア. 樹液などの「脂(やに)」という名詞を形容詞語尾で形容詞にしたものである。

イ. 脂は粘ることから、『日方大』の「②道などがぬかっているさまだ。」へ、ぬかるんで進めない意

味から、さらに「③道など険阻だ。険しい。⑪難しい。困難だ。」とか、「⑬煩わしい。うるさい。⑭ものうい。」へ、いっぽう「⑳強情だ。頑固だ。㉑厳しい。厳格だ。」も派生した。

- ウ、脂は伸ばすと切れることから「④弱い。もろい。弱々しい。」、押せばへこむことから「⑤柔らかい」へ、これらの弱い意味から「⑨手ぬるい。押しが足りない。⑩不確かだ。頼りにならない。」が、さらに「⑯仕事などがつたない。未熟だ。⑰ぐずぐずして訳が分からない。」が派生した。
- エ、脂に触ると汚れやすくなることから、「⑥汚い。不潔だ。」へ、そして美しくないことから「⑦体裁が悪い。貧弱だ。粗末だ。不揃いだ。⑧不つりあいだ。」や「⑬根性が曲がっている。ひねくれている。すなおでない。意地が悪い。⑮人物が悪い。」が派生した。
- オ、上記の悪い意味には共通して「程度が甚だしい」感じがあり、「㉔ものすごい。㉕甚だしい。多い。」が派生した。その否定は「たいしたことない」だから「⑮(否定語を伴って)易しい。容易だ。」となる。

3-2-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』では「ヤニコイ」類の項目に以下のものが見えている。

ヤニクサイ ヤニクサイ持つて来た。| 副 | 大層、花々しい | 日西東
ヤニコイ 雨ヤニコイ降つて来た。| 副 | 大層、沢山 | 日西東
ヤニコイ | 形 | 弱、病弱、衰弱 | 海那有日西東
ヤニコクサイ | 副 | 非常に | 西
ヤニシュイ 何とヤニシュイ仕事やな。| 副 | 大層 | 東
ヤネコイ | 副 | 大層 | 東
ヤネマイ | 副 | 大層 | 東
ヤネヤノ | 述助 | 大層ですな | 海那有西
ヤネヤノ | 名 | 大層のもの | 西東

形容詞「ヤニコイ」は「弱、病弱、衰弱」の意味と記述されている。分布は「海那有日西東」で県内広く通用した意味用法だった。この用法は、昨今は衰退しているようである。

副詞(形容詞連体形の転用)の「ヤニコイ」も既に登録されていて「大層、沢山」の意味で「雨ヤニコイ降つて来た。」のように使用しているのは現代と同じである。分布は「日西東」で東西牟婁とともに日高が見えるのが興味深い(ただし西牟婁に接する日高郡みなべか)。

そして「ヤニクサイ」「ヤニコクサイ」「ヤネコイ」「ヤネマイ」など多くの変化語形も登録されている。前掲『日方大』『日国大』の「㉕甚だしい。多い。」に

は和歌山県の例ばかり種々出ていて、全国における特色を示している。

副詞「ヤニコイ」類が「大層、沢山」の意味ならば前提として形容詞「ヤニコイ」にその意味が生じていたはずである。それは、『日方大』の「㉕甚だしい。多い。」にあげる、『新宮地方方言集』(和歌山県立新宮高等女学校、1935年)の「やにこう寒い」で立証できる。

3-2-3 報告書のデータと考察

報告書データでは、副詞「ヤニコイ」「ヤニコイ」は次のように出てきた。(数字は年齢層で、1=19歳以下、2=20-30歳代、3=40-50歳代、4=60歳以上。)

みなべ町：ヤニコイ(4・3・2女・1男)、ヤニッコイ(3)/田辺市：ヤニコイ(4女・3男女・3・4・2女・混合)・ヤニッコイ(4女・3女・1男女)・ヤニコイ(3男・1女)・ヤニッコイ(3女)、白浜町：ヤニコイ(3男女・1男)、上富田町：ヤニコイ(4女)・ヤニッコイ(3・1男)・ヤニコイ(3)・チャニクソ(4女)・チャニケー(4女)^{〈注2〉}、中辺路町：ヤニコイ(3)・ヤニコイ(3)/那智勝浦町：ヤニコイ(4男)・ヤニクサイ(4女)

このように紀南地方で副詞「ヤニコイ」「ヤニコイ」を「甚だしい。多い」の意味に使うのは、全国的に見て特色があることは「昭和初期の状態」で述べた。また「脂(やに)こい」からの多様な派生義に「程度が甚だしい」含意が共通しているために「甚だしい。多い。」の意味が派生したことも「全国分布と語史」で述べた。^{〈注3〉}

3-3 テチ

3-3-1 全国分布と語史

「てち早かった」のように形容詞を修飾できる副詞「テチ」は、和歌山県中部にだけ存在する特色ある方言である。周辺と全国各地に、動詞の意味を強める接頭辞「テチ」が存在するが、それから変化して比較的新しく成立したものと解される。次節で述べるように昭和初期の『和歌山県方言』に載せないのを見れば、それ以降のことと言える。^{〈注4〉}

『日方大』(『日国大』も共通内容の「方言」の項だけしかない)は、

てち《接頭》動詞に付けて、その意味を強める。兵庫県神戸市「てち殺す」 奈良県「てち込む」 和歌山県日高郡「あの木にてちぶつかった」「あれをてちこかしてやった」「てち破る」 島根県隠岐島「てちめぐ」 《てちや》 島根県隠岐島「てちやあたる(突き当たる)」/てちつける[動] ぶつける。打ちつける。投げつける。 和歌山県西牟婁郡・東牟婁郡 《てつつくる》 和歌山県日高郡//てちまわす[一回][動] 人を打つ。奈良県吉野郡//てちみじる[動] 破壊する。和歌山県日高郡//てちめぐ[動] 手荒く壊す。島根県隠岐島

と接頭辞ばかりを載せている。次に、この接頭辞との関係をうかがわせる「てしこい」の項を引用する(前半は地名省略)。「てち」「てし」は発音が近似しており、「動作の強調」と「甚だしい」の意味には通う所があるからである。

『日方大』

てしこい [一] [形] ①体がじょうぶだ。頑健だ。また品物の作りが緻密でしっかりしている。《でしこい》《てしこい》②手ごわい。③大きい。太い。《でしこい》《ですこい》《ですかい》《てすこい》《てすい》④甚だしい。ひどい。三重県志摩郡「夜やったや雪はてしこ一積もる」和歌山県日高郡 東牟婁郡「今日のはてしこう寒い」

[二] たいそう。非常に。《でしこい》三重県志摩郡

3-3-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』には次のように出ている。

テシコウ テシコウ寒い。| 副 | 大層 | 日

テシツト テシツトある。| 副 | どっさり、沢山 | 日

テスツト | 副 | どっさり、沢山 | 日

テチコカス 人をテチコカス | 動 | ぶつ転かす | 日
西東

テチコロス 人をテチコロス | 動 | 殺す | 日西東

テチツケル 石へテチツケル | 動 | ぶつつける、当たる | 西東

テチナゲル | 動 | 投げる | 日西東

テチミジル | 動 | 破壊する | 日東

テチヤブル | 動 | ぶち破る | 西東

テツツクル | 動 | 投げつける | 日

副詞「テチ」は載っていない。動詞接頭辞の「テチ」ばかりである。形容詞の修飾は「テシコウ」が担う。前述のように「テシ」は接頭辞「テチ」とも近似するが、あるいは「どっさり、たくさん」の「テシツト」「テスツト」とも関連があるのだろうか。

3-3-3 報告書のデータと考察

報告書データには次のように出てきた。(数字は年齢層で、1=19歳以下、2=2・30歳代、3=4・50歳代、4=60歳以上。)

龍神村：テチ(3男女・1男)／田辺市：テチコー(3男)・テチ(混合)、白浜町：テチコー(3男)・テチとテッチ(3男)、上富田町：テチ(4女)・テチクソ(4女)、中辺路町：テチ(3)／本宮町：テチ(3男)

田辺市・中辺路町・龍神村・本宮町という新田辺市域と隣接の上富田町・白浜町だけに「テチ」がある。なお、旧田辺市と白浜町は「テチコー」も並存している。^{〈注5〉}

3-4 コロモシ

ここからは少数派の珍しい語で、前節までの様式で

述べるのが困難なので適宜にする。

「コロモシ」は報告書データに「有田市：コロモシ(4女)」が現れる。この一言で有田市の人と見当が付く特徴的な方言である。^{〈注6〉}

『日方大』に

このましー[好][形] ①大きく美しい。みごとだ。秋田県雄勝郡「このまし鮎を釣った」山形県米沢市「このましい物を沢山下さって」《こどましー》山形県《ころましー》長野県上伊那郡「まあなんちゅうころましいすいかずら」②にぎやかだ。③うらやましい。欲しい。④頼もしい。⑤珍しい

とある、①の意味と解される。「好ましい」は「好きである。気に入る」が原義だが、「大きく美しいみごとなもの」は人々の気に入る「好ましい」から①が派生した。「好ましい」を「好ましい」とも言うが、「コノモシー」からの転訛で「コロモシー」となり短呼で「コロモシ」となった。

なお、意味が違う③「うらやましい。欲しい。」に、杉村楚人冠『和歌山方言集』から「このもしそうな顔してる」をあげている。

3-5 ノットロ

「ノットロ」は報告書データに「御坊市：ノットロ(1女)、川辺町：ノットロ(1男)、印南町：ノットロ(1)」と現れる。『和歌山県方言』には載っていない。若い層の言葉である。中西淳二氏(1947年生)の語彙集『和歌山県・日高地方の方言』(私家版、2004年、全43頁)には載っていない。

美山村の『美山村でつかわれている方言集』(美言協方言部、1984-5年、全80頁)には「のつとろに| 常々・たびたび」と説明していて、意味が異なる。また地域FM局「湯浅弁講座」の榎野ハル子さんは「辺り一面」と言われる。

『日国大』は

のつとろに [副] ①度を過ぎているさま。また、際限のないさま。はてしないさまを表す語。むやみに。…*雑俳・寄太鼓(1701)「桃の花見るとのつとろに腹がへる」…②あちらこちら。あたり一面に。*玉塵抄(1563)一四「学問所の学校もたえてくづれかきもなう、のつとろにあらわれてみえたぞ」

[方言] ①むやみ。やたら。…高知県「のつとろに食うと腹をこわす」②間断なく。始終。度々。…島根県八束郡・隠岐島「のつとろに鳥が来る」③辺り一面。どこもかしこも。あちこち。④量や程度の甚だしいさまを表す語。たくさん。…高知県「いらん本や雑誌がのつとろあってまぎれる(じゃまになる)」⑤めちゃくちゃ。粉々。

とする。これらを通して考えると、「際限ない、はてしない」から一方では「始終」と「辺り一面」が派生し、「量や程度の甚だしい」も派生した、そして「際限な

い」のマイナス評価から「むやみやたら」を経て「めちやくちゃ。粉々」も派生した。

現在は主に日高地方の年配層に「始終」「辺り一面」、若年層に「甚だしく」の意味で使われている状況である。

3-6 ムイキニ、ムッシリ

報告書データに「古座川町：ムッシリ(4女)、ムイキニ(4女)」と出てくる。

『日方大』では、

むっしり①憤然とするさま。②押し黙っているさま。口数が少なく陰気なさま。むっすり。③無愛想なさま。④たくさん。たいそう。和歌山県日高郡「アメリカでむっしり儲けてきた」《むっさや》和歌山県西牟婁郡《むっさり》高知県土佐市《むっすら》高知県高岡郡 ⑤蒸し暑いさま。むしむし。

むっそー(「めっそう(滅相)」の転か)①非常に。たいそう。三重県「むっそう疲れた」… ②たくさん。③一生懸命なさま。④途方もないさま。

むいき〔無意気〕①厳しいさま。きつく。三重県貝弁郡〔文献例〕浄・持統天皇歌軍法・三「あまり無意気な御勘当、つらい親御の心や」 ②(「無息」に掛けて)ひたすら。むやみ。いちず。兵庫県淡路島 和歌山市「そないむいきに引く張ったかてあかん」 徳島県「むいきに走る」 愛媛県 新居郡〔文献例〕酒・広街一寸間遊「山田屋でいっばいむいきにぐいとのみといふとこは文主どふだ」 ③甚だしいさま。極めて。岐阜県恵那郡 兵庫県「むいきに」 ④急に。不意に。香川県仲多度郡・三豊郡「そうむいきに押すな」 ⑤少しも。岐阜県飛騨

『和歌山県方言』には「ムイキ」は無いが、「ムッシリ」および「ムサ・ー」「ムッサ・ー」が種々見えている。(品詞の「副」を省略する)

ムサクニ | 非常に | 東//ムサニコニ | 大層 | 東//ムサラク | ムサラク寒い | 大層 | 西東//ムサンコニ | ムサンコニしてしもた。 | 非常に、滅茶苦茶 | 海伊有東//ムソウ | ムソウ偉い | 大変多く、無闇に | 日西//ムッサヤ | 非常に | 西//ムッシリ | 沢山 | 日//ムソウ | 非常に | 東西
「ムサンコニ」は紀北にも見えるが、他は東西牟婁と日高の紀南的方言で、種々あったのだが、現代では衰退しているようだ。

以上、和歌山の特徴的な方言語彙を中心に、県内分布に止まらず全国分布と語史、昭和初期の状態にまで広げて比較することにより、各語の意味用法の成立を考察する上で一歩前進をもたらし得ることを示せたならば幸いである。

【注】

- 〈注1〉 佐藤喜代治『日本の漢語』(角川小辞典)では、『漢書』高帝紀の「雍齒雅不欲属沛公」の注に「雅、素也」とあることをあげて、「雅」は「もともと」という意で「雅意」もそうだが、日本では「雅」の意味が薄れ「我」の意味に近づく、と指摘している。
- 〈注2〉 「チャニクソ」「チャニケー」の「チャニ」は「ヤニ」の転。「クソ」は「糞」。「ケー」は語尾「コイ」の転。
- 〈注3〉 和歌山県内で「ヤニコイ」の形容詞に「弱い」の意味があったことは『和歌山県方言』に見えると「昭和初期の状態」で述べたが、『日方大』『日国大』は「柔らかい」の意味も載せ、『方言』誌の論文(未見)によって「和歌山県伊都郡」をあげる。
- 〈注4〉 漢字「テツ・テチ(龍を縦横に四つ書く字)」由来説は成立しがたい。①助詞無しで副詞になるのは日本語によくなじんだ漢語のはずだが、当該字はなじみが無い特殊な字で、熟語も無い。②一字で副詞になる漢語は数少ないが「本ホン」「極ゴク」「即ソク」などがある。これらはよくなじんだ漢語で「本心」「至極」「即応」など熟語も多い。③当該字の意味は「多言」で、副詞「てち」や接頭辞「てち」の意味と距離がある。
- 〈注5〉 龍神村宮代地区の老人大学受講者が編集した『宮代の言伝 歴史を伝える郷土の言葉 方言』(年不詳)には「てち 非常に。大変。ひどく。| てち怒られたは、ひどく怒られた。| てち早かったは、非常に早かった。| てちやったれば、思いきりやれ。」とあり、接頭辞も健在である。
- 〈注6〉 有田弁を中心に収集したウェブサイト「和歌山弁講座(わかやまべんこうら)」には、有田市の中でさらに限定して、「ころもし | 副詞 | とても。【有田辰が浜】」と記す。
- 〈補注〉 語彙研究は与田左門「紀北方言難解語彙」、樫垣実「紀州方言語源雑考」、久世正富「コレシカヨイ由来記」、雑賀貞次郎「方言のゴモクについて」、杉中浩一郎「セキレイの紀州方言」、村内英一「こんじゃくる考」などかなりあるが一語ごとの研究が主で、本稿のように同義語を総合するものは「セキレイの紀州方言」など少数である。

【参考文献】

- 『日本国語大辞典』第2版(小学館、2001年)
- 『日本方言大辞典』(小学館、1989年)
- 『和歌山県方言』(県立和歌山女子師範学校・日方高等学校、1933年)
- 『わかやまことばの探検隊 報告書』(和歌山県教育委員会、2007年3月)
- 『美山村でつかわれている方言集』(美山村のことばとふるさとを愛する運動をすすめるための協議会方言部、1984-5年)
- 『宮代の言伝 歴史を伝える郷土の言葉 方言』(龍神村宮代地区、年不詳)
- 『和歌山県・日高地方の方言』(中西淳二著、2004年)
- 『ふるさとのことば 日置川町』(安宅常助著、1969年)
- 『日本の漢語』(佐藤喜代治著、角川小辞典、1979年)
- 『方言に生きる古語』(加藤正信・前田富祺・佐藤武義、南雲堂、1988年)
- 『地方別方言語源辞典』(真田信治・友定賢治編、東京堂出版、2007年9月 執筆時未見)